

これから伸びる 近畿圏のキャッシュ 2024

日刊工業新聞社 西日本支社：編

日刊工業新聞社

株式会社 荻下 鋸断

日本のモノづくりを支える精密鋸断のパイオニア ——厚板鋼板を機械加工並みの精度でカッティングする職人技術集団

ここに
注目!

他社に真似できない圧倒的な高精度&短納期を実現する企業力
鋸断から製缶、曲げ加工に進出する飽くなき挑戦マインド

鉄素材を融点以上に加熱して溶かしながら切り離す鋸断。金属同士を溶かして接合する溶接の逆と思えばよい。造船や産業機械、工作機械、建設機械など、国内の基幹産業を中心に幅広く用いられる加工技術で、この精密鋸断のパイオニアとして知られるのが株式会社荻下鋸断だ。鋸断できる最大の板厚は約1メートル。想像を絶する世界だが、荻下喜哉専務は「ただ切るだけなら他社でもできる。顧客の要求寸法に対し、研削加工と同等レベルの加工精度を出せるところに、当社鋸断の強みがある」と解説する。

創業は1936(昭和11)年。海軍出身の創業者が、軍艦の砲台の台座製作のためにドリルで孔を開けていた手法に代わり、精密ガス鋸断で時間短縮する方法を発見。当初はドイツ製の鋸断機を使用し

ていたが、戦後いち早く酸素鋸断器具メーカー(現日酸TANAKA)と国産第一号の精密ガス鋸断機を開発。以来、精密鋸断に必要な加工技術とノウハウを蓄積してきた。その結果、同社で様々な形状に切り落とされた部品の多くは、手を加えなくてもそのまま製品に組み付けられる精度を叩き出せるまでに進化した。

3万トンもの多彩な鋼板をストック

そんな荻下鋸断の高度技術に、機械や建機、造船といった大手重工メーカーが目しめないはずがない。コンベヤ、タービン、クレーンにカムシャフト…。多種多様な厚板加工部品の注文が同社に押し寄せる。現在の取引顧客数は約1,000社。まさに日本のモノづくり基盤をがっちり支え、産業社会

になくはならない存在になっている。

精度ばかりではない。もう一つ同社を特徴づけるのが、鋼板の圧倒的な在庫量。約3万トンを常時ストックしている。厚板の種類も千差万別。顧客の注文を受けてから、製鉄メーカーに発注しても数カ月納期を要する。自社で様々な鋼板を在庫しておけば、顧客の注文に即応できることになる。在庫圧縮が製造業の永遠の経営課題とされるなか、そんな「常識」に目もくれず、ひたすら在庫を維持するところに荻下鋸断の凄みがある。不況時も黒字経営を続け、自己資本比率70%超の強固な財務基盤を背景にした豊富な資金力なしにはできない芸当だ。さらに熱処理による強度増しや歪み取りも自社完結し、鋸断プラスαの付加価値を提供できる点も大きい。



本社外観



厚板製品鋸断の様子



託児所「ココモ」で会社復帰をサポート

荻下専務は、「他社が参入しようにも容易に真似のできないビジネスモデル」と言い切る。

実際の加工現場は、NC(数値制御)による最新の自動鋸断設備が並び、オペレーターがプログラミングした通りに鋼板が様々な形状に切断されていく。機械加工に迫る精密鋸断は自動化設備の賜物と思いきや、「鉄は生き物。五感を磨けと言われる世界がある」(荻下専務)とか。例えば鋼材のくせ。同じ種類の鋼材でも、メーカーや季節によって反りや表面が微妙に異なる。鋸断加工時の火花のあるのかを常時把握し、火口の

角度や強度を調整する職人ワザが鋸断精度を上げる肝になる。「効率の良い商売では決してないし手間も掛かる。けれども間違いなく顧客に喜ばれ、社会に役立つ仕事。顧客とウィンウィンの関係に立てる技術集団でありたい」(同)と言う。

「四方良し」の経営理念

2021年秋、近隣の岸和田ちきりアイランドに新工場を完成、稼働した。曲げ加工や製缶の専用工場、造船会社から溶接技術の専門家を招き入れ、鋸断から始まるトータルなモノづくりを完成させる同社の未来戦略だ。「後工程を知ることで、鋸断の技術向上に役

立てる狙いもある」(荻下専務)。

託児所、スポーツジム、最近は5階建ての社員寮などを新設し、働きやすい職場づくりを進める一方で、息を合わせることを大切にす社風から、社員旅行や盆踊り、餅つきなどのイベントを多く残し、チームで事を成し遂げる日本人の良さが発揮できる会社でもある。営業利益の一定割合を賞与に還元しており、好業績のときは年間7〜8カ月支給したこともある。近江商人の「三方良し」の精神をベースに、「作り手良し」を加えた「四方良し」の経営理念を掲げ、荻下鋸断は社員とともに創業100周年を目指す。

わが社を語る

代表取締役社長
荻下 茂夫氏



技量の向上に喜びを感じることができる企業を目指す

当社は昭和11年の創業以来、日本における自動精密鋸断業のパイオニアとして、常に一步先を見つめた研究と技術開発で、わが国を代表する大手企業様をはじめとする基幹産業の発展に貢献してまいりました。モノづくりには終わりのなき探求心が不可欠です。生産部門には「公差ゼロ」という厳しい条件を求め、現状に満足することなく、さらなる技量を身に付けていく仕

組みづくりを進めています。そして作り手を加えた「四方良し」の経営理念で、お客様に喜ばれるモノづくりを通じて、自らの品質や技量の向上に喜びを感じることができる企業を目指しています。吸収したい、成長したいという気持ちがあれば、鋸断業の楽しさを味わってもらえることでしょう。

会社 DATA

所在地：大阪府貝塚市港14番地の2

創業：1936(昭和11)年

設立：1952(昭和27)年

代表者：荻下 茂夫

資本金：2億160万円

従業員数：208名(2023年10月現在)

事業内容：鋸断品、高圧継手品、ガラス鋼管の製造販売、産業機械(コンベヤ、プレス機械、破碎機など)、造船(船舶ディーゼルエンジン、蒸気タービンなど)、建機・土木機械(トンネル掘削機、クレーンなど)、その他(車両、リニア、遊園地機械、原子力設備など)

URL: <https://www.komoshita.co.jp/index.html>



ちきり工場完成、落成記念祝賀会を開催